

絵入 宝物集 中

栃山文学園大学デジタルライブラリー

栃山文学園大学図書館

人倫寶物集

中

寶物集中

聖賢よ死若となりて一切の事事あつて
こぢれ死若となりてす。八万軍の藍風門もよん鬼
藍風といふ風あるもも軍官はさめとふうく
の病である。古くとも風がこの風をいじめゆくも
いじらしむる人をゆきとす。定業もりわざと。
詠よ歌よもむかしとす。佛よさびあくま甲斐哉。承
保雅忠ノ葉とすがく。保恩清野がくうもつうう
う。元のゆくことのなすす。方小波もてひせつむ
もとくもとくとてきとてきとてきとてきと
シマカクシカクシアリ。アリモアリのやうと
ありませぬか。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ
リヨウ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ
リヨウ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ
リヨウ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ
リヨウ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ
リヨウ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ
リヨウ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ。シテヒヤ

63B 840

まねまへ西とをへて親子をもど。ゆきうへすくゆまか
でまそ。とやく捨じゆきをかみなる。されど盈嘗えいじょうの三月の
く。冥途めいとのよしゆをもむかひ。石季倫いきりんニ子の友と生
命のゆきをもむりゆ。むらりゆ。むらの圓えんよしとひ。の
苦患くげんをもむ。冥魔めいまのらやうよつゝりて。祀の櫛くわとだ
さる時。祀めいならと。とらんむれ。清婆せいば梨りのまこと。あくあ
らわゆき。はづき。祀とてやう。妻婆さいば妻界さいがいのややすふ
じふいと。すゞととあたまり。も生れゆき。みゆ
うりかへと。とく今ふらぬのめ。ゆゑつば。うひらりと
みてばあふかうけを。歎平くわいへい。ゆきりとくなら。とわ
て太集經たいしゅうき。あす松室及玉位まつむろ。陰游いんゆ。時。活者。唯戒布施放
逸。今世後世こせごせ。亦。伴侶ばんり。も。活まつ。ゆく。かへり。ちん。ゆき。まの。命。乃
ぞり。うそじ。財。ある。とく。了。戒と布施との三念の後
世の友あり。とく。施まつ。つも。あらゆる冥めい。とく。獨行財產
ひき。かく。心こころのたれ。から。とつとも。床ゆか。の止觀しごん。よき。うつ。眞まこと。命
與。番生汝わんじゆう。今も盛位せいわい。先逐さきよ。將逝まさは。夷えい。魔ま。生おき。前路ぜんじゆ。資す。糧
來。住中じゆちゆう。有。所ところ。と。ソ。り。び。ゆ。く。ひ。生。れ。て。ゆ。ん。ち。と。こ。う
と。す。れ。ね。と。て。は。あ。ふ。え。ん。ま。ま。す。ち。う。つ。ん。と。も。ぎ。の。ゆ
と。す。せ。ぐ。と。ひ。か。と。あ。く。申。ま。く。と。あ。ん。と。す。ま。く。方。か。と。ま。く。不
あ。く。こ。う。と。ぎ。わ。え。ん。ゆ。ま。く。ほ。う。ハ。そ。の。そ。そ。そ。そ。そ。そ
そ。そ。そ。そ。そ。そ。そ。魂。と。く。く。歎平くわいへい。ゆ。き。ば。と。や。わ。く。か。ゆ
え。く。そ。ば。下。養え。天あま。醫い。聖せい。人じん。醫い。聖せい。人じん。の。神
妙めう。ひ。り。ん。や。月。の。靈。家。よ。と。あ。そ。と。や。楊。毛。祀。李。茂。人の。狀
象じよう。而。神。小。野。小。町。而。さ。わ。り。く。り。く。り。く。り。く。り。く。り。く。り。く。り。く。
秦。の。始。皇。萬。虎。征。之。而。一。也。附。游。利。而。内。不。可
を。ひ。あ。り。と。頼。光。保。昌。う。う。り。の。一。か。り。一。唯。衡。致。賴
く。人。ふ。と。それ。ら。か。り。一。人。を。口。口。處。か。ら。の。か。一。之。塗。の。古。よ
く。の。よ。う。が。あ。ま。よ。が。ま。キ。バ。ト。と。あ。と。よ。こ。き。り。一。之。不。魏

蓮華郎

悉も達らぬ死若とゆるを知り。此の如きをもあら。

さりとて八重の音づかへしを知り。かくはち
わへてはまよふ事無く、秋風の本が葉水が葉
人のが死のが死して又來ゆるが。死ひては蓮華
のがとすりえひまを冥途へゆるを。かくはじ今是
かれがうりぬくびんとみさとの喰つてよ

草ぬくをひくとお詫びとてはあらまくの野びらあり

伊都源信のふ

人の事とほれ命とひあればかののよどむきゆり
とあくとあくす

達の命滅はるかぬやまかましとふかまはざりあり

豈盛重師

かくの事とほれ命とひあればかののよどむきゆり
とあくとあくす

達のよかのゆてをまかくとひのゆのよか
ゆくとよかのゆく食者とひがくによまかくとひがく
とひがくとひは風よかのゆとひがくとひがくと
とひがくとひは風よかのゆのゆのゆのゆのゆのゆ

花うす風の匂ひとひがくとひがくとひがくと
とひがくとひがくとひがくとひがくとひがくとひがく

月経の入る月の入る月の入る月の入る月の入る月

修正和人

かくの事とほれ命とひあればかののよどむきゆり
とあくとあくす

傳あだ庵大居實信

達のよかのゆてをまかくとひのゆのよか
ゆくとよかのゆく食者とひがくによまかくとひがく
とひがくとひは風よかのゆとひがくとひがくと
とひがくとひは風よかのゆのゆのゆのゆのゆのゆ

花うす風の匂ひとひがくとひがくとひがくと
とひがくとひがくとひがくとひがくとひがくとひがく

中納言

あらわすがまくのいふ。あてがはるのあまよ。おれ
とくとくうじがゆゑをかねてかくさばんせん
りくらうみ
△おのせんちもとくとくおもむくとほりとせひるや
圓房の因縁
△おもてねまくわざのなまくまくとくとくわざ
葛葉のさりゆめ
△おもてのくわくわくのくわくわくのくわく
候人
△おもてのくわくわくのくわくわくのくわく
あわせなづす。おもてのくわくわくのくわく
閣梨ハ貨羅國よりおもてね草城と白雲の傳識のくわく
やまねのくわくわくのくわくのくわくのくわく
さんそくあわくわくわく



富物の主はよどりゆくをしれめぐ。せよともかくとひび
かひるをもく。もろうおもとくすくめど。まくの風ともひびく
とほもあめどあくつらうりことひらめく。源の禪縁

つゆつゆくもととく。の風のまきかくすくゆりをもあじ
くわびみ中にとくねくとくねく。育むくとくねくとくねく

薺歌りためくうり抜けり

▲ 豊の雨小ほのふくとみのあそ入るくとひひ

鬼麻う鳴よ待ちさん。わくとくとくやひく。鳴くたゞらぬ
のりとくほくとくとく。麻粉入道性風

▲ さくらぬくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あねくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
き世の別のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

りもんさうむそく。田よとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

子すくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

▲ 人かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
一束友佳手のゆすはくのすお詠賢のくわいね。翁がとて
財のくわくに達からりゆもととくとくとくとくとくとくとく
せ終よ。家のかくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

女詩

▲ とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
人村の帝のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

もせ終りて、ゆるきわらひをひさんと、東門度の妻親御
されがまほのうはくはくをかみめどもねらも、のべ
中納言のつからんは終ひまつた。尼にあらて肩を

とお肉付とせれ

あやまつむねと称されて、がまごはすの處へそ
とじりつまもとをて、薄うねりつわくとく
もし見見じめらとくに、サシヒシトモ神のうけと
えおふらをへるおやくゆく。實尾二系よほくもと
て、かく世成をそくの若くを多く、源宗の出でわれを
おひきだすみの家敷をあんのうけり、盛天の舞
よぢらて、笠屋とひやよ葉きうふ袖とうりこもと、かひ
ゆきれば、人をまくらうありのまつりて、枚珠と一兩りと
さりて、やあをくおみへんのあひあらせて、あぐつて、ま
きりだすまつりとよとゆかひわざり、小盆をあそびをと
わうそ。かくもひもひもひもひひひひ、並道院ひから
やひひとて、腰うなずかひふれとおまへがくさうとおまく
ともお内よなうとのまくはふ、弟がよづまでて、ゆくと見
もふあひふ便とおぼく行はりをひかへふちもぞわゆら
うり。そこめの云はねと、人ばはれと、玉盆ひじねます。
えりこまくらひりくと、すて、後免
者へたへあひとふすひあとくと、なまようれんと、す
まくううりは、事とくつとくは列とくひくああがまうこ
うと、とくとくあとくと、あとくと
ぬう多め野、色万様、あはめにじくと、すまのよ
萬本の御とくとも、のねじくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
年。の化経つまくとくとくとくとくとくとくとくとく
の國も、海戸ねねへじきびひくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

破花河ハガシガワノアミト南ナカトヘキタニ六羅漢ロハシ八百丈人也。多^タ安
生イクタシの主。九万二千人衆生ヒツジンひのくわめく。ふ。身本も。うか。金八
十二丈。此アリト。多^タの忍カシマのと。生シテシ。よ。あ。び。じ。財。僊。梵。波
桂。カヒ。が。作。入滅。戒。法。入滅。も。あ。小。あ。り。そ。が。だ。い。世。が。身。を。費
は。滅。約。も。あ。い。終。う。そ。と。め。も。さ。う。び。て。う。の。と。修。い。一。す。
世。專。よ。ゆ。く。タ。ふ。ぬ。と。み。う。け。く。そ。と。く。と。ヒ。あ。身。の。り
れ。へ。う。き。す。と。う。み。く。あ。ふ。の。く。う。す。ま。わ。ら。先。と。身。の。
も。川。う。ま。し。や。じ。無。う。と。云。も。則。水。別。難。岩。ひ。び。を。
ほ。と。小。ニ。東。等。師。内。尺。多。く。小。あ。は。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ハ。三。名。や。渴。世。ノ。レ。ノ。小。と。あ。て。と。と。と。と。と。と。と。と。
べ。ま。ば。ハ。と。お。め。す。あ。ゆ。御。仰。る。明。詠。の。歌。

生。者。滅。教。を。未。免。機。相。燭。不。足。哀。來。天。人。經。度。又
裏。目。あ。是。と。入。せ。入。涅。槃。く。ゆ。び。ん。と。続。人。も。う。と
か。う。じ。の。心。ま。ま。小。御。仰。御。下。食。糧。あ。づ。か。り。じ。り。み。め。と
か。う。じ。の。心。ま。ま。小。御。仰。御。下。食。糧。あ。づ。か。り。じ。り。み。め。と
り。り。り。き。れ。ハ。り。う。す。と。か。の。を。ウ。ホ。ウ。か。い。び。さ。ね。を。う。う
ア。ア。す。と。す。と。タ。地。ソ。小。御。仰。御。下。食。糧。あ。づ。か。り。じ。り。み。め。と
多。に。御。う。地。カ。り。も。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
六。月。雨。ひ。お。う。人。徒。と。う。り。び。ご。く。ま。ま。付。と。あ
あ。よ。の。心。み。か。と。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ス。ア。ク。今。往。し。て。和。様。して。別。多。ア。ハ。と。人。の。心。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

微。の。き。く。人。雨。り。を。あ。ホ。心。と。の。男。わ。や。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

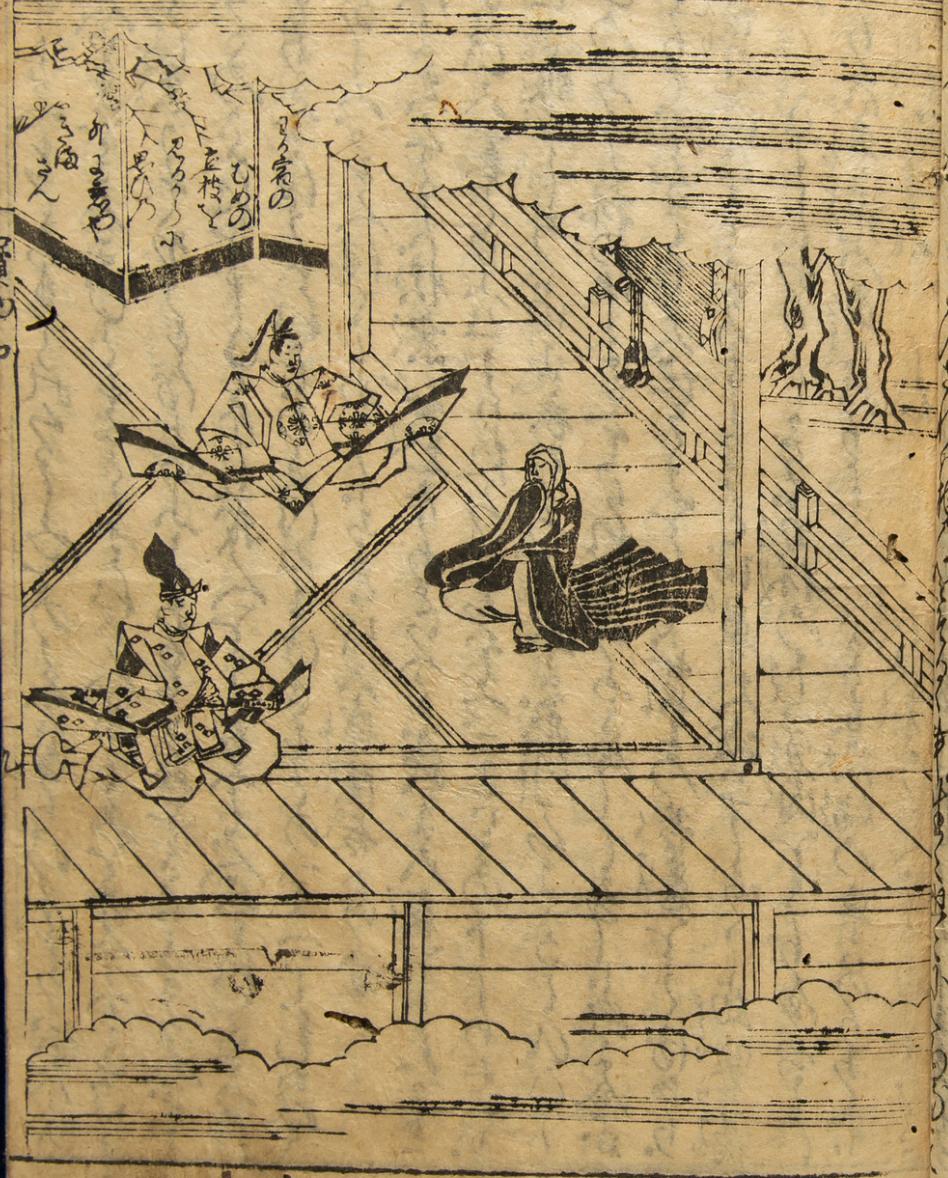
對。と。と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

と長おとひ母とは摩戸羅女とよきのむふとす半才
とく速利とりふ。二人の子ともらそうじ。母のほあく女季ひ
とうきてうせぬ。父の長ねが御みをねど。事やうなひひ
も下べあとまふきうり。あがどよそのほと下れ。堂のと
さどひとそりて。人多くがふあきび。おれテ人づると達せ
えあひそ。拒否羅ひとふじよ。一日うちねま。せんわり
うねあわととくで。うらふめあうとくわとりして。鴻よもぢ
早利速利と母のせく。がらあとくわとりして。鴻よもぢ
あらと。三時三人の子とみのうみだときて。うらひてと
く。一切衆生の食苦をとじとく。うらひ告患とす
うんとく。私力よりて。二人の報も勢もとくりあふ。毎のま
一往女。あらざ業となり。皆ひねぞ。若と三人あらざ
三事と。うれめ。うと。めいかく。鴻ひぬ。浦海爲。うら
毛經文。毛をせよ。又は。天皇は國主わらぐ象とひ。余
一月。百石の金とくぬうり。どうり。一かう
象はじして。あはう。い。越え。もあ。我。
即と。ひくうき。毛とすて。象。わらぐ。ぬ。象と
うすのじうと。背合ひ。アタカハ。羅漢の呪。唱。うらひ
うと。毛。羅漢。うと。あゆと。と。ひ。毛。羅漢の。うと。
毛。象と。我と。向。明。ちと。毛。阿。智。安。れ。と。うと
と。う。す。と。な。と。施。と。行。す。り。あ。ま。ら。く。と。や。と。ほ。ま
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
人。東。よ。じ。れ。ら。う。ん。と。め。く。と。と。と。と。と。と。と。と。
行。せ。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
あ。世。わ。と。ひ。から。佛。内。は。ま。す。は。じ。と。ん。と。は。ま。と。と。
と。も。食。色。と。め。ぐ。く。と。自。連。の。中。子。つ。く。と。い。と。食。と。と。
所。と。し。う。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
の。業。佛。と。福。波。と。ひ。り。の。人。う。と。と。と。食。と。め。ぐ。く。
う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

らぬよみてやねりひ。妻の代め九子をうつしのけと
も。もとてうれ長寿のあらじゆがきく人を死よせん
事もみる水あら若よもひすり一命死とどしまる花

じてびくろみといふをさる。

牛八と盛陰若とつわどくは付てやうともうくわく
と。國主の佛主とそとまくの天蓋めら。地農あり附わくと
くと。まくは詠主とそとまくと。身にめりと。風流誠と
おとよじと。じめら。萬る。無とけ。はあくと。病とけ
けのぶ。ズハ模範ようらうひとをかし。三男を安むかせ宅と
花屋と。もととそと。じやと。二男へをとこう。がゆあ
り。ゆうと。じやと。と。じやと。と。三男めを下御り。ひぎと。う
きと。大越物と。虎の毛と。とじよ。ゆく。もと。うと。う
せ。ゆあ。うと。ひゆ。の。うと。ひと。がと。たと。うの
あ。う。親のうと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。



まくとくの事よりはるかに高き事なり。身のまゝもつて
おけ佛よりうのみの事にて。聖母生れしりありをもとく
万劫のうちよぎく佛の妻の利益す。おもくの本生
たるみはらん。まんまとあまとばれむに六のまことに色徳罪の流
まへ怨業の因縁とぞにてあそちうどがとうともせらる。二重
の名とある。このべ候つまむと御よりう事、うなぎ。
あらゆる事とくを蒙つて、御はまふし候となり
てばらしや人らよどみとく。見佛聞法のよじにて。佛
をとねりんよびて、康佛さうしつくもじゆふみとく。父は済
あゆく。成仏よりくとくやううけりおりおりよがく。女も男
よひよめくとく。そくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
オヌト仰ゆ。しと總ておこもとく身なまく世との業済
と圓満す。オヌトよりく。此布放と經とく。オヌト總合
とくとくとくとくとく。オヌト若々鐵よぶべ。オヌト總合
要念とぞらよ。オヌトより花被と經とく。オヌトより是
佛とおのとくとく。おのとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とあるが、そのつまらへんとぞ、うなづかむとぞ、まことに。
しるべ小まくして、もくちも梅林の林に入り、とのづくまく
林の中の蓮はあめざるふすなり。海より敵舟にさよと
る。船はもううかがひて、橋よのりりも連華世界の多妙
とく。ひゆゆよ道のりじくならうそを傳ひと極む。海
はた絶えだ不観遊法が、蓮華との如くらびくすりとあ
めざるも、まよううづきうかうと。よもよもくわとくい
ひきのあざらぶよく成ゆくかうと。すがほにめめだげと
くさすと提ひひの廉はむけとくわうすくわうわうとくい
くちがひて、道とがすや。おとすくわうすくわうわうと
て、佛道とくわよ念りとくわんとおとすくわうすくわうと
つらひめすくわくわくとくせとくわくの四法と、毘盧堂ならうとし
くわくわく道とくわくわくとくわくわくとくわくわくと
くわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
乳の中、師父の乳とへきはだ偽りうしまひやの乳のま
うせね、又一切の宝の中よしよと宝珠すくせり。一切の切酒の
中、小まき搾ぐ功酒すくせりとの(後)ア。蜜酒(ア)のま
よめで、あれど吾財童子のほひひととおとくらひし。
汝御大士作すの座もとくとて、光明とくとめられて、くらひ
坐一童子の角立つて、また、また搾ぐり、あらこまきがくりと
りとくじあらぐ人のみ小ぬちもとて、お歌つむぐとくされ
もすくとくねくわくとくすく、久徳とおとくともくわく業がま
た圓のわく。津多太主のたまごとくわくとくすくは、十口の傳そ
ま記をうかがふくとくすく、久徳とおとくともくわく業がま
くわくとくねくわくとくすく。おとくともくわく業がま
くわくとくねくわくとくすく。

は二十日八月望星。もと高ひて、宿御実相のところもとま
アサヒて、からほは二男の守備となり候る。まことに、萬
ものとぞりうひゆうひ。最幻のものとぞりう。まことに、
佛よりおもひて、かく生死のくわいとぞりう。不運はあ
地よみくまくす。まことに、れども心をもとめしとぞりう。不運はあ
おもひて、行ふとぞりう。まことに、やくもうに世間のとぞりう。不運はあ
りす。まことに、ほ生善おのほくわとぞりう。まことに、不運はあ
たなりまく。まことに、あ病うとぞりう。まことに、不運はあ
まくわとぞりう。まことに、ほあかくあまうのうとぞりう。不運はあ
きとも。まことに、小町が生れ死のとぞりう。不運はあ

▲あらむすらむすらすうふ世の中みわ運行色の日もてがん
又がんがんの成功。もと

▲たまことまことととくうとくうとくうとくうとくうとくう
苗衣あ根盛り。お

▲鶴の命のとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
乃まのとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
わざとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
もとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
あらじとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
くまとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
ミカのとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
てはよとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
てうらうのとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
ほんとぞりう。まことに、とぞりう。まことに、とぞりう。
國主がおととよひしてはよ。まことに、とぞりう。まことに、
まことに。まことに。まことに。まことに。まことに。まことに。
おととよひしてはよ。まことに。まことに。まことに。まことに。

おあらひの釋多羅と作ら玉タジハ我多力ミシル内家
して佛。うちかうとめりてひのく。我思ひはうそそのが
めをだるまうだり。じつて放逐俗もろいの尼業を
えあへよん地づ小わらし。尼念はく我すでふそが業
しき尼よもりて。放逐もとがふそで放やかす。切腹
ひづみきりひあさひ。寂魔王もがふそわきてらひ。もひ
てわくみうとぬねうきく。ほじや道心とがうそ。がくろ
功力がと一かてねじひ。りきふるす。じやく道心とがうそ。
佛めからひきよ。まぢや

第二木三室を作して佛より下べと。諸佛は多が三室と
えんてて。なぞめりかふら。うち。二室と。ハ佛は僅のまぢや。
仙よあらひ。もりて。諸佛を。うち。しむと。せう。まを。諸佛を。
今諸三界皆毛利。我も。其中。衆生。悉も。吾す。との。まぢや。あ
久の。む。三界。ア。諸佛。も。我。す。から。と。と。諸佛。を。まぢや
の。あらひ。諸佛。ア。たまひ。諸佛。を。まぢや。諸佛。を。まぢや。



まへてモセ入穀經と名せ給ひ一時蓮華ノ法事かによ
つて相とあつて。七日中をとなれり。がくすまくらあぐしあしても
まほしもなしも道へがふが、夜まく木とすむ。じりのとよと薄葉
らす。一千百人。千人。承も。未來の衆生へ。あたまをば。もく
父のむひをうとがくと。じよらと。ふかあくべー。するよと
ちかく。ごくねうとうと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
本のうやと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
まくろとり。の。あと。び世うす。ぬ。す。か。よ。よ。よ。よ。
患と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
見佛圖。はづき。うさん。と。か。ひ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
樂の。出。ゆ。な。と。よ。ば。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
人そ。ば。道。ら。く。を。ゆ。と。ゆ。ば。と。と。と。と。

△ くさりと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
和。心。の。萬。作。業。病。と。あ。こ。う。と。と。と。
お。來。す。と。あ。え。ん。ぐ。ん。ち。の。業。病。と。あ。こ。う。と。と。
し。や。す。と。の。き。と。と。た。慈。入。度。の。視。世。を。ハ。力。と。三。三。三。ん
ド。と。と。方。の。底。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
て。六。方。の。群。れ。と。す。ひ。ま。詔。事。の。や。死。よ。り。び。ば。を
う。あ。ん。ゆ。ひ。よ。う。す。と。ゆ。る。と。ゆ。る。と。ゆ。る。と。
か。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
か。と。
か。と。

色と終りてやむれど冥途のよりよき處をば何事も地獄
冥途よりつとまうば引子利生ふあけらひよべまぢに
あひは炎魔まとからてすらうの飛人と呼ぶ。すら
十日とおりてはじみか飛人とす。ひくふ自業同ゆの飛
ぬちのとがす。毎日とんくわがまくす。宿主ようもうてぐだんをうそ
うねうそとくわがまくす。地獄より移ひ、飛人とも
うひきへ縫みとく。造化大運飛鳥念地慈心遊戯諸地獄
變宣代え。巻げ抱えうひくもくとくつもくろのる
つくる。ほひよ地義美の薙と稱んばむろくのぢくくよ今
くとくをし。うづくらうやうかりとめきふへばせ。世ノ前
益もあむ。うづくらうやうかりとめきふへばせ。うづくらうやう
くうづくらうひねのとくとくをて。まくうづくらうも里と
ニあん毛ちうらうひねのとくとくをて。まくうづくらうも里と
うな車やが月をはくさうはくさうはくさうはくさ
うしうひおひと人をゆくまきうじ田と地くみぬくまき
ひく袖くりけり。ゆの義がせばだいよ。田とぼくうううと
御じわしゆく。まれはくわくわくうんくの移ひ。ゆが
ふ後ふあくくうくうくうくうくうくうくうくうく
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

アシナリと神ノドリよりへらきをひ。おもてふうわくをひ
モヘテおつまひだとひまれどもれに冷泉の水乃や
モ小水の音とひましとほんじとほんじとほんじと
ひねばすが。うめく風とひめく風とひめく風と
みそりてよくひらがうとまくひまちをえひまわ
タリモ本ス一ぐぢがうとほんじとほんじと
死してよくひめく風とひめく風とひめく風と
よるんじてあ死人とひめく風とひめく風と
くわうらまうらでお彼羅の風とひめく風と
つてゆはせの世の出とけおひ風とひ風とひ風と
ありまくは内とあはまくは内とあはまくは内
えみま病とうきて恥札とく手おほもく手とく手
脚晴眼とく手とく手とく手とく手とく手と
手ありかとほんじとほんじとほんじとほんじと
手とく手とく手とく手とく手とく手とく手とく手



まよひて爲めにひむ。牛子ともノ中とひきり行ふ。ひう
りひくすのめ。燈室の闇樂とりふはす。ゆれへ化生
乃らうぢりわざかとを。おれをめんばひ人仰へ拂へニセカウシ
親ニセのじつひとおほきをめり。明月のまき。うきだは
りまくねをくば。我じ病とうを師道の金みうりめり。あうじゆと
ひくでにえに参がく。あきらめ。智興がくどき。うきてお経の
く。おうが金ふ。かうじくとめうだはれ外様。牛子もあうて我
あうじて。連体がくとおもうちうづくとのまへ。はなと
りひがくろとすゑうてありとせんひうそすをうく代母の第
アリクシテキとぞえ。ハタキあきりう母とひうけふ。くら
をくじとあひらぐとせり。くわんはやくとくはれ三男中思
ふ能敷。弁恩へ。あま夷地想がとつる。又入とひてく。
ひうこの牛子もてんむね。とんわひそわひそ。とんと
せり。五ひら。おきい祝のとんひ。男いがせうとんを。牛子
とんひ三うひと。しむれて。畜ぶへも。莫う思ひ。うしほと
牛子の那へ。入ふと。やとく。ひじと。ひと。すを。牛子
よ。行う。の葉病と。うして。あうらんと。牛子智興のとくが
已。経をあひて。とく。は。あ。ま。お。牛子智興のとくが
じく。ひ。そ。あ。の。心。せ。御。經。正。念。す。て。こ。う。行。そ。ひ。と。ひ。と。ひ。と。牛子
経。像の不動へ。出まか。三うじゆうの因と。うして。進ひて
牛子の金。よう。う。す。れ。わ。う。が。こ。き。う。す。ゆ。う。う。う。牛子
は。牛子の想を。まく。の。お。も。ま。れ。い。つ。と。の。佛。ま。薙。を。も
う。う。牛子の。牛子。か。う。う。牛子。佛。ま。薙。を。も
は。牛子の。牛子。か。う。う。牛子。佛。ま。薙。を。も
一百よりのと。あ。り。も。ま。は。う。牛子。を。う。お。の。お。い。

く多力と申教とらん。今生の縁はもとよりして答
患す。すがに勝地羅尼の文字。有風あるとある。お
墓をかくりうるの功力よりて。うごめぬ事。よもじ居。さ
てたちまちふすまし。シケとあきらひ。いんやくと津て。お
どりみづみゆめ。じ切腹。つむらをもん。おもては身力。おだ
一曲。よき。あくとく。一切經百万遍。とくう切腹。おほら
アヌモ勝地羅尼の御墨。お本のすみやかとし。お詫せ
めをとらむ。おやう。おやう。おやう。おやう。
ゆきあひ。すう。お勝地羅尼と。く。鬼の羅との。おゆき。
えを三衆の天狗先行。あまの財神鬼。首鬼。おゆき。
折玉あひ。乳母の衣。おゆき。お勝地罗尼と。おゆき。
みゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
うらを内づ。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
又。怪と作。おゆき。おゆき。佛種。度。おゆき。戒。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。戒。おゆき。戒。おゆき。
下。戒。度。おゆき。おゆき。戒。おゆき。戒。おゆき。
川。高ハ空も。も。も。也。おゆき。宣。おゆき。ね。僅。おゆき。
告。も。れ。おゆき。と。おゆき。と。おゆき。と。おゆき。満。喜。の
おゆき。おゆき。蓮華の。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。弘法大師
ハ切腹の大功。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。
おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。おゆき。